ウィルムスがん財団

ウィルムス腫瘍

保護者・介護者向け情報

栄養の重要性



資料シリーズ3.1c（保護者向け簡易ガイド：栄養の重要性）

概要

小児がん医療では、栄養が治療成績を左右する重要な要因であることを示す科学的根拠が増えています。

治療は強力である一方、高い効果が期待されます。栄養状態は、治療に耐える力、治療に伴う有害作用からの回復、長期的に最良の結果を得る可能性に大きく影響します。

十分な栄養をとれている患者は、化学療法や放射線療法への耐容性が良好で、減量や治療の遅れも少ない傾向が一貫してみられます。良好な栄養状態は免疫機能を支え、治療日程の中断や入院の長期化を招く感染症にかかりにくくします。また、腎摘除術を含む手術後の治癒の改善にも役立ちます。

一方、低栄養はさまざまな望ましくない結果と関連しています。感染症の増加、入院期間の長期化、身体の回復力の低下、治療への反応の低下などです。重度の場合は治療強度の変更が必要となり、治療全体の効果を損なう可能性があります。栄養は目の前の治療成績だけでなく、機能の回復や生活の質にも影響します。

治療中に良好な栄養状態を維持できる子どもは、筋肉量や活力を保ち、通常の発達に必要な活動に参加しやすくなります。

これは身体面だけでなく、心理・社会面の健康にも重要です。新たな研究では、早期から継続的に栄養面の介入を行うことで、心血管疾患や代謝異常などの慢性疾患の発症を含む、長期的なリスクにも影響を与える可能性が示唆されています。

問題が起きてから対応するだけでなく、ケア全体を通じて栄養を組み込むことの重要性が、こうした知見によって裏づけられます。医療制度の観点でも、適切な栄養管理は合併症を減らし、入院期間を短縮し、治療全体の効率を高めることで、より効率的な医療提供に貢献します。支持療法の最適化が治療成績に大きく影響し得る、資源の限られた環境では特に重要です。

大切なポイント

栄養は単なる補助ではなく、小児がん治療の成功に欠かせない要素です。治療成績と長期的な健康の両方に、測定可能な影響を及ぼします。

栄養は、お子さんの体力を保ち、治療に耐え、感染症と闘い、速やかに回復する助けになります。治療中の体は普段よりも懸命に働くため、少量の食べ物や水分でも大きな意味があります。

注：食欲に波があるのは自然なことです。完璧を目指す必要はありません。毎日、できる範囲で栄養を届け、お子さんを支えることが大切です。

図1／段階に応じた栄養管理

段階別の栄養管理			
日々の栄養	2〜3時間ごとに食事を勧める	一日を通して水分補給を促す	毎食たんぱく質を取り入れる
治療中	吐き気には刺激の少ない食品	生もの・未殺菌の食品を避ける	口内炎にはやわらかい・冷たい食品
医療チームに連絡	24時間、食事をとれていない	嘔吐が続く	脱水の徴候

三大栄養素のバランス

栄養素	割合
炭水化物	50%
たんぱく質	25%
脂質	25%

治療中に優先したい栄養

項目	優先度スコア
水分補給	90%
エネルギー	85%
たんぱく質	80%
電解質	75%

ケアの各段階における栄養の重要性

段階	重要度スコア
診断時	70%
治療中	95%
再発時	100%
治療後の生活	85%

資料シリーズ3.1c（保護者向け簡易ガイド：栄養の重要性）

ウィルムスがん財団（WCF）

ウィルムスがん財団（WCF）は、小児腎がん（特に、一般にウィルムス腫瘍と呼ばれる腎芽腫）の影響を受ける子ども、家族、医療機関を支援し、そのニーズを代弁する慈善団体です。啓発、教育、権利擁護、早期発見、治療、支援に関する国際的なプログラムを確立し、この病気の広がりに取り組むことを使命としています。

このWCFガイドは教育目的の資料です。カナダ、米国、欧州の国際的な小児がん診療基準に基づいています。ご心配やご質問がある場合は、資格を持つ医療専門家にご相談ください。

© 世界保健機関（WHO）。ウィルムスがん財団（WCF）との協力のもと、許可を得て使用しています。CureAllはWHOの「小児がんに関する世界的イニシアチブ（GICC）」の一環です。WHOは特定の団体、製品、サービスを推奨するものではありません。

© ウィルムスがん財団 | 無断転載を禁じます